

イーセップ(株)との業務連携で 「環境戦略」を推し進めていきます

本年、8月10日、日東精工はナノセラミック分離膜技術を有するイーセップ株式会社と業務提携契約を締結しました。今号のニュースレターではこの業務提携契約の背景や目的を解説していきます。

先般、国連のグテーレス事務総長が「地球温暖化の時代から、今や地球沸騰化の時代に突入した」と、環境に関して相当な危機感をもっていかなければならない旨の発言をされていました。地球温暖化の影響もあるのでしょうか、かつては50年に一度、100年に一度といわれた異常気象がもはや毎年のように起こっていて、企業経営についても「環境」への対応が重大な課題になっています。

当社日東精工でも近年「環境経営」に力を入れています。

もともと当社の主要製品のファスナー（工業用ねじ）は、締めたり外したりができリサイクルには欠かせないものですが、省エネルギー、省資源、省コスト、あるいは軽量化などをさらに進化させた製品を多数開発。たとえば異種金属接合技術「AKROSE」は、自動車のEV化などが進むなかで環境面でも期待できるとして高く評価されています。あるいは制御システム事業では有機溶剤を使わないマイクロバブル洗浄装置「バブ・リモ」なども販売、各事業本部がそれぞれお客様のCO₂削減へつなげる環境対応製品を開発・販売してきました。

そして本年からスタートさせた新中期経営計画「Mission G-second」※1では4つの成長戦略のひとつに「環境戦略」を掲げています。2025年のCO₂排出量を、2019年比12%削減する目標として挙げ、その対応として、本年3月にはより高い生産性と品質の向上、環境（CO₂削減）に配慮したファスナーの新工場を起工し、今秋から稼働を開始する

予定です。

こういった「環境戦略」の一環で、この度、すぐれた環境対応技術（ナノセラミック分離膜技術）をもつイーセップ(株)と業務提携契約を締結、今後、当社の制御システム事業部門及び生産技術・研究開発部門との連携のなかで、有機溶剤リサイクルの事業化の推進（有機溶剤リサイクル回収装置の開発）を推し進め、カーボンニュートラル※社会の実現を目指していきます。



澤村健一イーセップ(株)代表取締役社長（左）と
当社代表取締役社長 荒賀誠



※1 「Mission G-second」では4つの成長戦略で持続可能なグループを目指しています。Growth#1が「事業拡大戦略」Growth#2が「環境戦略」Growth#3「人財戦略」、Growth#4が「財務戦略」となります

※2 カーボンニュートラル (carbon neutral) とはCO₂など温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、その排出量を「実質ゼロ」に抑えるという概念

京都から世界へ向けて発信 カーボン・ニュートラルに貢献するモノづくり

深刻化する地球温暖化は主に二酸化炭素CO₂の過排出が原因とされています。

これまで有機溶剤を用いるリサイクル市場では大量のエネルギーを使用してCO₂を排出していましたが、無機分離膜を用いた分離方法に置き換えることでリサイクル回収量を大幅に向上させ、CO₂削減に大きく貢献できることができます。

今回の業務提携先であるイーセップ社が有するナノセラミック分離膜技術と当社が長年、各種プラント設備や食品・薬品メーカーの製造設備において防爆バッチカウンタや各種防爆型流量計で培った防爆技術、及び流体制御技術を融合させた製品を実用化することで、有機溶剤リサイクル市場が抱える課題解決に貢献できるものです。



イーセップ社は2013年に設立、京都の「けいはんなオープンイノベーションセンター」に本社をおくベンチャー企業です。当社では2017年に京都市内に「R&Dセンター」を設置し、さまざまな新しい技術へのアンテナを張りめぐらせています。今回の業務提携締結で①両社の強みを活かした新製品開発による事業の創出、②リサイクル市場のCO₂排出量削減によるカーボン・ニュートラル社会実現の貢献、③京都から世界へ向けたカーボン・ニュートラルに貢献するモノづくりへの発信、などへの期待が膨らみます。

台風に被災された方にお見舞いを申し上げます

日本国内の台風だけでなく、海外では山火事、ハリケーンなど、自然が猛威をふるっています。被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。当社が本社をおく綾部市でも台風7号により河川の越水や土砂崩れが発生しました。当社にも早々に多くのお見舞いをお寄せいただいたことを厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

当社は被害を免れ、通常操作をしておりますが、床上浸水など被災された方が多く、当社でも従業員が復興作業、災害ボランティアに参加しました。被害に遭われた方が少しでも早く元の暮らしにもどれるよう祈念し、また当社では皆様が安心、安全で暮らしていけるモノづくりに精進してまいります。



東京、日本橋で「2023年12月期第2四半期決算説明会」を開催

8月28日に東京、日本橋にある日本投資環境研究所にて「2023年12月期第2四半期決算説明会」を開催し、当社代表取締役社長兼COO荒賀誠が当期も増収増益であったことや、本年度からの新しい中期経営計画「Mission G-second」にもとづく事業展開などをご説明しました。前回の3月開催時同様「会場」ならびに「Web」にて実施。また同日の午後ならびに翌29日に個別取材を受け付け、機関投資家やメディア関係者の方へ、日東精工への理解を深めていただきました。



オープンファクトリーに子会社、東陽精工が協力

当社本社をおく京都府綾部市は人口3万の小都市ですが、当社ならびにグンゼの上場プライム企業のほか、高い技術力や独自戦略で成長を続けるユニークな企業がたくさんあります。綾部がモノづくりのまちであることを広く訴求し、理解を深めてもらうことを目的に綾部市観光協会では「夏休みオープンファクトリー」を8月23日に実施、子供たち約20名が参加しました。朝から夕方までいろいろな工場を〈はしご〉して見学するものですが、当社のグループ企業、東陽精工も精密部品の加工見学や製品の検査体験などのプログラム協力をしました。



パラグライダーで世界一を目指します!

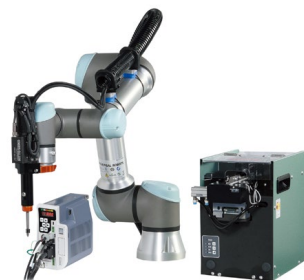
当社はスポーツ庁の「スポーツエールカンパニー」の認定を受けていて、従業員がスポーツを通して、自身の心と身体の健康をととのえるだけでなく、地域交流、地域貢献に積極的に関与することをサポートしています。

すでに何度かこのニュースレターでも紹介していますが、当社の岩崎拓夫はパラグライディングの第一人者で、今夏、行われた「パラグライディングワールドカップ（トルコ）」にも出場。個人総合では7位（120人中）入賞と好成績を収め、来年3月に行われる「スーパーファイナル」への出場権を獲得しました。世界一を目指す岩崎をぜひ応援していただければと思います!



協働ロボットの「URオンライン展示会2023秋」に出展

9月11日から15日までに「URオンライン展示会2023秋」が開催され、当社産機事業本部からも「PD400UR」を出展しました。近年、協働ロボットの需要が高まっており、当社では複数のロボットメーカーと連携しています。ユニバーサルロボット社もその一つで、ねじ締め機では日本ではじめて同社の「UR+」認証を取得しています。今回のオンライン展示会ではユニバーサルロボット社のロボットに搭載可能な「PD400UR」の動画やカタログをオンラインブース内に設置して当社製品のPRをしました。



また秋は展示会が目白押し。10月18日から20日まで「ものづくりフェア2023」（マリンメッセ福岡）、11月15日から17日までは「バッテリー大阪」（インテックス大阪）での出展を予定しています。

【誠の言霊⑥】

啐啄同時

荒賀誠

知

人からこんな話を聞きました。

中学生のお孫さんとたまたま
本屋さんに出かける機会があり、
「おすすめの本ある？」と聞かれた

ので、重松清の小説をすすめたら、
すっかりハマってしまい何冊もま
め読みするようになった。成績が芳
しくなかったお孫さんですが、国語
をはじめ、その他の教科も、それま
では「問題」そのものが理解できず
答えられなかったのが、本を読むこ
とで読解力がつき、「問題」を理解
できるようになったので、軒並み成
績が上がっていったそうです。

本がもつ力ってほんとうにすごい
なとあらためて感じました。と同時

に、学びのスタートはいつからでも
OKで、そのきっかけを逃さずにサ
ポートしていくことも大事であるこ
とも再認識しました。

啐啄同時という言葉があります。

鳥の雛が卵から出ようとして鳴く声
と母鳥が外から殻をつつくのが同時
であるという意から、禅宗では師匠
と弟子の呼吸が一致するとき、悟り
が得られるといいます。学びの場を
設けるだけでなく、学びのタイミン
グや学びの速度など、きめの細かい
配慮も必要。学ぼうとする者と教え
導く者の息が合って、相通ずること
が大切だということですね。

題字・文 代表取締役社長 荒賀誠

「幸せ」を見つけるヒント ——— 10月

手づくりの「受験生応援ねじ」

♪かあさんが夜なべをして手ぶくろ編んでくれた
♪という童謡がありますね。手ごろな値段でなんでも
購入できる便利な時代ですが、それでもこの歌の
世界観はいまも息づいているようです。小さなお子
さんをもつお母さん・お父さんはズックや袋などに
アップリケを縫いつけたり、名前を刺繍したり、あ
るいは毎日、キャラ弁をつくったりで大忙し。ジェ
ンダーフリーの時代ではあっても、手づくりのぬく
もりに変わりはありませんね。

とはいえ、ずいぶん昔の話ですが、出張先でふら

りに入った居酒屋で「手づく
りだからおいしいよ」と勧め
られたものが、自分の口には
まったく合わず、困ったこと
がありました。手づくりも仲
間内だけでなく、外へ発信し
ていくものであるなら「客観的評価」も必要という
ことでしょう。

当社では受験生向けに「ゆるみ止めねじプレゼント」を行っています。パッキングや配送などほとん
ど「手作業」「手づくり」です。この事業は今年10
年目を迎えますが、今後もぬくもりをしっかりと残し
つつ、マンネリにならないようにしていきます。



日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭

材木正己

※日東精工はサステナブル経営(絆経営)を通して皆さんの幸せを願っています。



発行：日東精工株式会社経営戦略本部経営企画室

当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲覧いただけます